公立大学法人　大分県立芸術文化短期大学

令和５事業年度の業務実績に関する

項目別評価（大項目評価）及び全体評価

令和６年７月

大分県地方独立行政法人評価委員会

令和５事業年度の業務実績評価（大項目評価）

Ⅰ　大学の教育研究等の質の向上に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、25 項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。

②全学横断型の「アートマネジメントプログラム」が開講 6 年目を迎え、3 科目において全学科から 142 名が受講し、令和５年度に修了した 33 名に認定証を授与したことに加え、「修了プロジェクト」のアンケートでは、全体的な満足度も非常に高く、教育の質の向上が図られていること。

③進路希望調査を複数回行うとともに、オンライン面接への対応など進路指導、インターンシップの実施、内定者や卒業者、企業の人事担当者の生の声を聞く授業等により、就職内定率は 98.1%、進学合格率は 99.0%といずれも目標の 90%を達成したこと。

④過去に行われた選抜実施状況のデータを分析し、県内外での高校訪問を強化することで、定員を上回る志願者及び入学者を確保したこと。

⑤ＮＦＴ技術を活用したデジタルアートによる地域活性化の実証実験、日本製鉄株式会社九州製鉄所大分地区と連携した広告企画・ポスター作成など、地域や企業、行政との一層の連携を図るとともに、実践を通して専門性を生かす体験的・主体的学修活動を推進していること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

〇教育の内容及び到達目標

・芸術系と人文系の学科を併設する本学の特色を活かした全学横断型「アートマネジメントプログラム」は開講 5 年目を迎え、3 科目において全学科から延べ 142 名が受講し、令和 5 年度に修了した 33 名に認定証を授与した。

・芸術系では、県内各地域で様々な活動を行い、多くの県民が芸術文化に触れる機会を提供するとともに、コンクールの動画審査に対応した指導を実施した。

・人文系では、留学生の受け入れ、海外語学実習を実施した。また、コロナ禍では対面での実施が困難だった「ポートフォリオ発表会」を対面で実施し、学生間での結び付きを深めるとともに、コミュニケーション能力を深めた。

○教育の実施体制

・各学科において、カリキュラム・ポリシーとカリキュラムマップの点検・評価をし、新任教員採用による観光マネジメントコースの専門教育科目の充実や時間割の一部変更などカリキュラムマップ及びカリキュラムの必要な変更を行った。

○学生への支援

・卒業生・修了生満足度アンケートにおいて、全体の満足度がコロナ禍前を含めた過去６年間で最も高い 85.4%となった。

・インターンシップやガイダンス、模擬面接などにきめ細かな支援を行い、令和５年度の就職率は 98.1%、進学合格率は 99.0%となり、それぞれ目標の 90%を大きく上回った。

・４年ぶりとなる中国からの留学生や、障がいのある学生及び社会人など特に配慮が必要な学生へ学修面、生活面の支援を行った。

○研究の方向

・全学科において、県や他大学、企業等との共同研究を行い、地域の産業振興の発展に寄与した。例えば、美術科（情報コミュニケーション学科）では、NFT技術を活用してデジタルアートによる地域活性化の実証実験に取り組み、本学学生が作成したデジタル作品14点をSBINFTにおいて販売し、うち１作品が購入された。また、デザイン専攻では、日本製鉄株式会社九州製鉄所大分地区と連携して、ヒーローを用いた広告の企画コンセプトとポスターを作成した。

○地域社会への貢献

・オープンカレッジ、公開授業を積極的に開講し、講座数、受講者ともに増加した。

・芸短ギャラリーを活用した制作展の開催、音楽ホールを活用した公演など、教職員と学生による新たなキャンパス利用を推進すると共に、新規団体及び一般市民向けに人文棟教室や体育館や、音楽ホール及び芸短ギャラリー等の積極的な貸出を行った。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
教　育	12			4	8
研　究	6			1	5
社会貢献	6			1	5
その他の目標	1			1	
合　計	25			7	18

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・本学の特徴である全学横断の『アートマネジメントプログラム』も開講６年目を迎え、充実してきた。修了者の満足度も高く、教育の質は図られ、高く評価できる。
・就職率 98.1％、進学合格率 99.0％と極めて高い実績。県内就職率も 57.6％。（本来であれば、60％以上は維持されたい）
・サービスラーニング（45 プログラム、延 932 人参加）による地域社会への貢献も高く評価したい。（毎年プログラム数・参加者は増加）
・音楽科の社会貢献、地域貢献についてはさらなる向上を期待したい。
・対面式のオープンキャンパス、高校訪問等で受験者を増やしていることは高く評価できる。さらに、研究倫理の規定等の作成、研究費特別枠と若手教員が活用しやすいように改善していることは高く評価できる。
・各学科においてカリキュラムを検証し、検証結果を授業へ反映されたとのこと、そこから得られた成果を示されたい。
・すでに令和３年度に構築したルーブリック評価に関して、試験的に運用し、その効果や問題点・課題等について情報共有し今後取り組むべき課題を抽出した、との重要な検討を踏まえておられるなら、アートマネジメント講座の創出やサービスラーニングによる分野横断型の総合化カリキュラムをさらに次世代社会が目指している DX 化、GX 化、脱炭素化社会、地球温暖化現象克服へ向け、どのような能力形成を導くためのカリキュラムや新コース構築が求められているのか、果敢に構想を打ち出していただきたい。

Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A **計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、７項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。

②学内会議や委員会の活性化を通じマネジメント強化を図るとともに、教育目的が達成されるよう、教職員の人材育成と計画的な教員採用を行ったこと。

③予算と人的資源を最大限に生かして大学経営を行うため、業務の選択と集中の観点から、大学の魅力アップ、社会貢献、進路支援と学生確保、有為な人材確保の４項目に予算と人的資源を集中させ重点的に事業を実施したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

〇運営体制

・教育研究審議会、幹部会議や危機管理対策本部会議を開催した。また必要に応じて関係学科長や専門委員長及び担当教員と情報共有を図ると共に、迅速かつ機動的な意思決定を行った。

・学外委員等や地域活動を通じて、大学ニーズの把握に努め、それを大学運営に反映させた。

〇人事の適正化

・時代や学生ニーズに対応するため、美術科教員は応募資格を、油彩画に加えてデジタル絵画や多様な視覚化表現の教育が可能な者とし、国際総合学科教員は、専門領域を文化人類学か観光学に変更して公募し、優秀な人材の採用内定を行った。

〇業務の選択と集中

・予算と人的資源を最大限に生かして大学経営を行うため、業務の選択と集中の観点から、①大学の魅力アップ、②社会貢献、③進路支援と学生確保、④有為な人材確保の４項目に予算と人的資源を集中させ重点的に事業を実施した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
運営体制	3			3	
人事の適正化	3			2	1
事業の選択と集中	1				1
合　計	7			5	2

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・理事長（学長）のリーダーシップのもと、大学の運営は適切に行われてきたと評価する。

・学長を軸とする活動、学内教員の先生方が求められて行われる学外委員としての活動が主たる情報源とのことであるが、大分県民をはじめ地域社会からのニーズを吸い上げる「公聴」手法や、その結果が十分であったかどうか、再検討が欠かせない。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、8 項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。

②室温管理の徹底、空調機の稼働管理等に加え、教授会で経費削減を呼びかけるなどに取り組み、燃料費高騰のなか、光熱費を節減したこと。

③公開授業及びオープンカレッジの拡充をするとともに、施設利用ルールの整備や貸出可能施設等を拡大し、自己収入の確保につなげていること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○事務等の効率化及び経費の抑制

・燃料費が高騰するなか、室温管理の徹底、空調機の稼働管理等に加え、教授会で経費削減を呼びかけ、使用量が増える時期には消し忘れの見回りをするなど経費節減に取り組み、電気及びガスの使用量及び料金を削減した。

○自己収入及び外部資金の獲得

・チケット制に加え、少額の受講料（300 円）については、券売機（ガチャ機）によるチケット発行をし、利用者の利便性の向上を図るとともに、受講料を確実に徴収した。

・音楽ホール棟の講義室や楽器の貸し出しを開始するとともに、貸出チェックシートを作成して、使用者に施設等の使用前後の状態を確認してもらい、施設等を適切に管理している。

・iichiko グランシアタの改修工事に伴い、第 59 回音楽科定期演奏会を福岡県で開催することとしたため、スポンサーを募ったところ、特別協賛金 2,750,000 円を獲得した。

○資産の適正管理及び有効活用

・視覚障がいのある学生が安全に通学できるように、監視カメラの新設、点字ブロックの設置等安全・防犯対策を強化した。

・教育研究活動における知的財産に関する相談を広く受け付け、適切な支援を行った。また、産学官連携プロジェクトについては、契約書案の作成及びリーガルチェックを行うことで社会貢献活動を支援した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
事務効率化・経費抑制	2				2
自己収入・外部研究資金の獲得	3				3
資産の適正管理・有効活用	3			1	2
合　計	8			1	7

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・経費削減への取り組みは計画通りなされていることを評価する。
・大学の収蔵作品の展示などの社会貢献に努めている。
・コスト意識の改善がどのような成果に反映していくのか、明示されたい。

Ⅳ　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、3 項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
②令和４年度の認証評価結果を踏まえ、改善が必要な事項への対応等を検討したこと。
③ホームページやＳＮＳ等を活用し、積極的な広報を展開したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

〇自己点検及び自己評価の充実
・令和４年度の認証評価結果を踏まえ、改善が必要な事項への対応等を検討した。
〇情報公開や情報発信の推進
・アクセス情報の分析に基づく、ホームページの更新とＳＮＳへのニュース等の投稿を行った。
・ホームページのリニューアルに向け、ブランディングの検討をし、ブランド・アイデンティティ「大分県立芸術文化短期大学は、感性と知性を融合させ、新たな視点で地域・社会の未来を開きます」を確認した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
自己点検 ・自己評価	1			1	
情報公開 ・情報発信	2			1	1
合　計	3			2	1

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。
※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・ブランド・アイデンティの構築は芸術系と人文系を併せ持つという本学の特色あるいは存在意義を再認識し、あらゆるステークホルダーがその意義を共有するには極めて意義深い取り組みである。寧ろこれからが本番。その目指すべきブランド価値を行動や価値判断の指針として、どれだけ浸透させうるのかが試されているのではないかと考える。

・ホームページの更新と SNS によるニュース等の投稿に努め積極的に情報発信するとともにアクセス情報を分析、そこから発展的に得られたブランド・アイデンティティ「大分県立芸術文化短期大学は、感性と知性を融合させ、新たな視点で地域・社会の未来を開きます」と示されたものの、実際に得られた「新たな視点」が十分には明示されていない。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A **計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、6 項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
②キャンパス整備事業で整備した設備について適正に管理、運営したこと。
③理事長面談でハラスメントの防止や服務規律の保持、学生の個別指導における注意点に関するガイドラインを周知徹底したこと。併せて、ハラスメント等人権侵害防止規程及び同運用指針を改正したこと。卒業生・修了生に対し、在学中の人権問題についての卒業後の相談窓口を周知したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○施設・設備の整備と活用
・キャンパス整備事業で整備した施設・設備について、各種維持管理契約を締結し、委託業者とも連携しながら、適正に管理・運営した。
・パソコンやプロジェクター等リース物品の契約満了の際、使用状況等を踏まえ、物品の変更を適切に行った。
○情報セキュリティの確保
・教務学生システムについて、その情報の取扱いなどにセキュリティ上の問題がないことを確認した。
○人権尊重の推進
・学生対象のハラスメント実態調査を実施し、調査結果を教授会で共有することで、ハラスメント防止の意識向上を図った。
・理事長面談において、ハラスメントの防止や服務規律の保持の徹底を図った。
・ハラスメント対策を強化するため、学生の個別指導における注意点に関するガイドライン、ハラスメント等人権侵害防止規程及び同運用指針を改正した。
・業式・修了式の際、卒業生・修了生に対し、在学中の人権問題についての卒業後の相談窓口を周知した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
施設・設備の整備と活用	2			2	
安全管理	1			1	
情報セキュリティ	1			1	
人権尊重の推進	2			1	1
合　計	6			5	1

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・ハラスメント事案に対して、理事長（学長）がリーダーシップを発揮されて対応されたことを評価したい。今後、2度と同じような事案が起きることのないよう厳格に履行していただきたい。

・この４年間にわたる新型コロナウイルス感染症を危機管理と位置付け、教職員及び学生を含む全学的な組織的対応に腐心されたことと評価しうるが、こうした体験知を網羅的に把握されたうえで、今後の大学全体の安全安心環境づくりへ向け高度な危機管理対策を整備していただきたい。その際、重要なのは、厄災や災害から身を守るためには、大学側が公的に用意する安全安心危機管理対策のみならず、教職員及び学生が自分の身は自分で守る「自助」の能力を高めること、同じ学科・コースの仲間たちや大学周辺の地域社会住民のみなさんと支え合う「共助」による取り組みを進めることも欠かせない。そのために平時から防災・防犯意識及び安全・衛生管理意識の向上を図ること、事故の防止及び事故・災害発生時の安全確保に努めると同時に、大学内外の地域社会で起こりそうな災害や避難活動のあり方、避難経路の把握につとめ、地域社会の方々と交流し知り合っておき、何かあったら協力・支援できるような関係を築いておくことも必要である。大学祭や学内ギャラリーでの作品公開や発表会の場へ地域社会の方々を積極的に迎え入れるような平時の活動も期待できる。

２　全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画を順調に実施している。

判断理由

①　大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」についてはＳ評価（特筆すべき進行状況）であり、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「Ⅴその他業務運営に関する重要目標」についてはいずれの項目もＡ評価（計画どおり進んでいる）であること。

②　「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関して、全学横断型の「アートマネジメントプログラム」が開講６年目を迎え、全学科から 142 名が受講し、令和５年度に修了した 33 名が認定証を授与されるなど、新たな学修の展開を引き続き推進するとともに、就職・進学それぞれに対応した進路支援プログラムと進路支援室と各学科の連携によるきめ細かな面接･相談等を行った結果、就職率は 98.1％、進学率は 99.0％と、高い水準を維持していること。また、県内各地域、各種団体、企業との協働による制作・発表活動、地域支援活動などを実施するとともに、ＮＦＴ技術を活用したデジタルアートによる地域活性化の実証実験、日本製鉄株式会社九州製鉄所大分地区と連携した広告企画・ポスター作成など、地域や企業、行政との一層の連携を図るとともに、実践を通して専門性を生かす体験的・主体的学修活動を推進していること。

③　令和４年度に発生したハラスメント事案への対応については、学生対象のハラスメント実態調査を実施し、調査結果を教授会で共有することで、ハラスメント防止の意識向上を図るとともに、理事長面談において、ハラスメントの防止や服務規律の保持の徹底をしていること。また、ハラスメント対策を強化するため、学生の個別指導における注意点に関するガイドライン、ハラスメント等人権侵害防止規程及び同運用指針を改正したこと。

＜委員会からのコメント＞

〇全体として年度計画を順調に実施している。

〇少子化が進む中、今後は受験生・入学者の大幅な減少が想定される。それに対応するには、本学のブランド価値をステークホルダーにあまねく周知すると共に、そのブランド価値を常に行動の指針として本学教育や地域社会の改善・改革に向けて取り組んでいくことが必要だと思う。

〇県立大学として、県内就職率についても十分に目を配っておいていただきたい。

〇長年にわたり培った大学イメージや地域社会との信頼関係が一挙に崩れてしまうような学内で生じた事案へ対応しながら、今後へ向け各種ハラスメントの防止を図る努力がなされている、と示されたことを今後は鋭意実践される中、イメージ刷新や捲土重来をはかっていただきたい。

【参考：大項目評価の結果】

Ⅰ 教育研究等 の質の向上	**S 特筆すべき 進行状況**	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
Ⅱ 業務運営の 改善及び 効率化	S 特筆すべき 進行状況	**A 計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
Ⅲ 財務内容の 改善	S 特筆すべき 進行状況	**A 計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
Ⅳ 自己点検 ・評価及び 情報提供	S 特筆すべき 進行状況	**A 計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
Ⅴ その他業務 運営	S 特筆すべき 進行状況	**A 計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり